

デフリンピック2017 ～トルコ・サムスン～

**JAPAN SPORT**  
COUNCIL

日本スポーツ振興センター

競技力向上事業

## 男女シングルス準々決勝

作成：山本広報

■平成29年7月24日(月)

7:00	朝食
8:00	選手村出発
9:00	試合会場入り
10:00～11:00	男子シングルス試合観戦
11:00～13:00	練習
13:30～14:30	昼食
15:00～16:00	女子シングルス試合観戦
17:00	選手村到着
20:00	晩御飯
21:00～21:30	ミーティング
21:30～	解散、就寝

日本代表チームの試合は全て終了しましたので、本日行われた試合の結果を掲載します。

### 【男子シングルス準々決勝結果】

Andres Sebastian Vazquez(エクアドル)[12] ○ 6-4,6-3 ● Gabor Mathe(ハンガリー) [1]  
Marino Keg(スロベニア)[8] ○ 6-3,6-2 ● Prithvi Sekhar(インド) [13]  
Jaroslav Smedek(チェコ)[5] ○ 6-2,6-1 ● Mikael Alix Laurent(フランス) [3]  
Egor Alexandrovich Panyushkin(ロシア)[2] ○ 7-5,6-4 ● Mario Kargl(オーストリア) [5]

### 【女子シングルス準々決勝結果】

Chiu-Mei Ho(台湾)[1] ○ 6-2,6-2 ● Vasiliki Kalogeropoulou(ギリシャ) [6]  
Polina Smirnova(ロシア)[5] ○ 6-2,6-1 ● Jana Janosikova(スロベニア) [3]  
Chia-Wen Lin(台湾)[8] ○ 6-3,6-1 ● Aurelie Coudon(フランス)  
Verena Fleckenstein(ドイツ)[2] ○ 6-3,6-4 ● Marine Beney(フランス)



写真は上の2枚はスロベニア Marino 選手とインド Prithvi 選手の試合  
下の2枚は台湾 Lin 選手とフランス Aurelie 選手の試合

### [男子シングルス総評]

男子シングルスは梶下、親松、松下選手に勝利した前回デフリンピックシングルのメダリストの3人が準々決勝で敗退した。

Andres Sebastian Vazquez(エクアドル)[12] ○ 6-4,6-3 ● Gabor Mathe(ハンガリー) [1]  
24歳のエクアドルの選手はヨーロッパ選手のような強力なサーブやパワーはないが粘り強く、Mathe 選手が攻め急いだり、攻めあぐねてのミスが重なり、エクアドルの選手の勝利となった。

Marino Keg(スロベニア)[8] ○ 6-3,6-2 ● Prithvi Sekhar(インド) [13]  
22歳のスロベニア Marino 選手はサーブと攻撃的なストロークを武器に先にブレイクし主導権を握る。Sekhar 選手もカウンターやサーブ&ボレーを駆使してポイントを奪っていくも、Marino 選手の攻撃力が上回り、勝利

Jaroslav Smedek(チェコ)[5] ○ 6-2,6-1 ● Mikael Alix Laurent(フランス) [3]  
ミカエル選手に勝利したチェコの Smedek 選手はなんと15歳。  
1セット目はミカエル選手が得意のサーブとボレーで3-0とするも、Smedek選手が15歳とは思えぬ落ち着きで盛り返し、Smedek 選手が 7-5 で奪う。  
2セット目は Smedek 選手が主にストロークで主導権を握る形となり、見事な勝利。  
Smedek 選手はまだ 15 歳ということもあり、今後世界大会のトップに立ち続けるであろう。

Egor Alexandrovish Panyushkin(ロシア)[2] ○ 7-5,6-4 ● Mario Kargl(オーストリア) [5]  
ロシアの Panyushkin 選手は2年前のイギリスでの世界選手権の優勝者。  
親松選手に勝利した Mario 選手と五分五分の状態だったが、Panyushkin 選手はディフェンスのボールがかなりしっかり返している為 Mario 選手のアンフォーストエラーが目立った。  
接戦の末、Panyushkin 選手が勝利。

### [女子シングルス総評]

Chiu-Mei Ho(台湾)[1] ○ 6-2,6-2 ● Vasiliki Kalogeropoulou(ギリシャ) [6]  
前回デフリンピックシングルス銀メダリストの Ho 選手の勝利。  
Kalogeropoulou選手はストロークもしっかり打つが、ミスは多い。  
Ho 選手はミスがほとんど無く、粘り強く崩したミスを誘うか、ウィニングショットが決まっていた。

Chia-Wen Lin(台湾)[8] ○ 6-3,6-1 ● Aurelie Coudon(フランス)  
片手バックが特徴のCoudon選手はしっかりとスピンの効いたループボールとドロップの組み合わせで1セット目序盤は攻めあぐねての Lin 選手のミスが目立った。  
中盤からは Lin 選手が対応してきて、ウィナーの数で圧倒し、Lin 選手の勝利。  
台湾選手がベスト4に2人入る形となり、今後もアジアにおいて日本の強敵となるであろう。

Polina Smirnova(ロシア)[5] ○ 6-2,6-1 ● Jana Janosikova(スロベニア) [3]  
どちらもサーブ、ストローク共にパワフルなショットを持っている。  
Smirnova 選手は1stサーブの確率がやや低めだったが、ラリーポイントで淡々とポイントを重ねる。  
Janosikova 選手は今大会、パワーではNo1,2 を争う選手と思われるが、この試合はミスが目立った。

Verena Fleckenstein(ドイツ)[2] ○ 6-3,6-4 ● Marine Beney(フランス)  
しっかりとストロークを打つBeney選手に対し、片手バックのスライスやドロップを織り交ぜリズムを変えながら前後左右に揺さぶるラリー展開が多かった。  
2ndはBeney選手のブレイクもありリードしましたが、Fleckenstein選手が落ち着いてブレイクバックし、最後5-4のサービスゲーム、デュースが続きましたがしっかりと勝ちきり、勝利。



日本代表選手は親松・笹島ペアが Wang (台湾)・Hong(カナダ)ペアと練習試合を行いました。時間の都合で 5-5 で終了となり、五分五分の内容でした。